

大きいものに hyperplasy にても RI activity が認められるようだ。また前縦隔部腫瘍の malignant lymphoma には (++) と、非常に強い RI activity が認められ、malignant thymoma との鑑別に困難があった。以上 benign thymoma においては、P.M.G. で認められるものは、 ^{75}Se -selenomethionine にても abnormal な activity があり、患者への侵襲の程度を考えると、 ^{75}Se -selenomethionine は、患者に負担を与えず、有力な情報を得るものと考ええる。

15. 脳シンチグラムにおけるドーナツサインの検討

渡辺 定雄 李 敬一
(青森県立中央病・放)
村沢 正実
(弘前大・放)

当院で1973年5月から1978年4月までに行なった $^{99\text{m}}\text{TcO}_4^-$ による脳シンチグラフィー1,092件のうち、ドーナツサインを呈したのものにつき検討を加えた。

1092件中 Positive scintigram は468件、375例で、そのうち術後変化によると考えられたものは除外して、頭部の病変によると考えられた327件、251例を対象とした。

Positive scintigram 中で、ドーナツサインを呈したものは251例10中例で4% (327件中12件で3.7%) であった。これは脳シンチグラム総数の約1.1%にあたる。

10例の内訳は、Glioma 2例、Meningioma 1例、Brain abscess 2例、Metastatic brain tumor 1例、chronic subdural hematoma 2例、Giant aneurysm 1例、および臨床経過から脳浮腫と判定された1例であった。

Glioma では10.5% (19例中2例) に見られ、いずれも直径6cmを越えた Glioblastoma であり、cyst と necrosis が原因と考えられた。Glioblastoma だけでは25%の高率であった。

Meningioma では5.3% (19例中1例) で中心部の著明な石灰化が原因であった。

Cerebral abscess では40% (5例中2例) で、necrosis, capsule, 周囲の edema の組みあわせによると考えられた。

Metastatic brain tumor は5% (20例中1例) で肺の扁平上皮癌の転移で、周囲の脳浮腫のためと思われた。

Chronic subdural hematoma では6.7% (30例中2例) で発達した Capsule によるものである。

動脈瘤でドーナツサインを呈した1例は、中大脳動脈の $7 \times 5.3 \times 3.7 \text{ cm}$ の中心が血栓化した巨大動脈瘤であった。

代表例を供覧しドーナツサインの意義について述べた。

16. び慢性肝疾患における肝シンチグラフィーの検討

高橋 弘
(磐城共立病・放)
須貝 吉樹
(同・内)

肝び慢性疾患のシンチグラムの鑑別のため、正常例45例、慢性肝炎例15例、慢性肝炎と肝硬変の合併例15例、肝硬変例55例を取り上げ検討した。シンチグラムは、 $^{99\text{m}}\text{Tc}$ -phytate 約2mCi 注静1時間後に撮影した。各シンチグラムについて、肝の大きさ、肝内 RI 分布の不均一性、脾濃度、脾影長、脊柱部濃度の5項目を挙げ、各項目に0から+3までの得点を与え、その合計点数により判定した。

正面像のみで判定した場合、慢性肝炎の true positive は20%、肝硬変のそれは80%となり、慢性肝炎は正常例に近い得点を示すということ、さらに+5以上は肝硬変にしかみられないという点で、両者の鑑別は可能と思われた。脾濃度、脾影長、脊柱部濃度については、背面像で判定した場合、慢性肝炎の true-positive は0%、肝硬変例の